



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

LOJAPR07/12- No.103

FAO(国際連合食糧農業機関)日本事務所

2007年11月7日

プレスリリース

F A O食料需給見通し (Food Outlook)

穀物価格の高値継続を予測

天候不良、低在庫量、逼迫した供給事情の中での高い需要がその原因

2007年11月7日(ロンドン/ローマ)

世界穀物市場の高値傾向は、主要輸出国の厳しい生産状況や極めて少ない在庫量のため、来年も続く見込みである、と国際連合食糧農業機関(F A O)による「食料需給見通し」(Food Outlook)は本日発表した。

F A Oは、多数の国々が世界市場からの穀物輸入にあたって、輸入量が減少したとしても前年より多い支払いを余儀なくされる、としている。記録的な輸送費高と輸出価格の高騰がこのような輸入コスト上昇の主要な理由である。

F A Oの最新の分析によると、国際穀物価格は世界の多くの国での食料インフレーションにより上昇しているとしている。「殆どの穀物は、最近数年間よりも逼迫した供給状態にあり、その一方、需要は食料・家畜飼料・工業利用のため増加の一途である。」と報告書は述べている。 今期始めより既に低レベルだった在庫量は、世界の穀物生産量が辛うじて利用量に見合う分しかないことから、現在の低いレベルが続くもの、と予測している。 又、2006年に農産物価格は高騰したが、一部産品ではそのペースを上回る上昇が本年では見られるとした。

殆ど全食品での価格上昇

Food Outlook によると、現在の農業市場の価格上昇は、ある特定の数種の製品の価格上昇ではなく、殆ど全ての主要食料品・飼料産品の高騰ということが特徴的である、としている。

穀物等主要作物の国際価格高騰の波紋は、食料供給チェーン全体に連鎖・拡大しており、パン・パスタ・肉・ミルク等の基本食料品の小売価格を押し上げている。F A Oは、世界が現在のような広範囲に及ぶ共通の食料品価格インフレーションを経験することは極めて稀なことであり、輸出国・輸入国、また先進国・途上国を問わず、農産物価格の今後の動向について議論を活発化することとなる、と分析している。

食料の供給と価格に対するバイオ燃料の影響の増大

石油価格の最近の急激な高騰は、農産物の生産資材価格の上昇とバイオ燃料へのこれら農産物の需要拡大という形で、農産物の価格を一層押し上げている。Food Outlook は、石油価格高騰と環境問題対処の要望の高まりという両面から、原料、特に砂糖、メイズ、菜種、大豆、ヤシ油やその他油糧種子作物、そして小麦の需要が今後さらに高まるものと予測している。

輸送コストの上昇が食料品価格の更なる上昇へ

燃料価格の上昇、船舶輸送能力の増加、港湾の混雑、より長い貿易ルート等が、輸送コストを押し上げ、農産物市場における船賃が以前よりも重要性を増している。Food Outlook によると、船賃上昇は、単に輸送費高騰ということだけではなく、輸入国が輸送費削減のためにより近隣からの輸入を試みるようになるため、輸送ルートそのものの地理的变化をも伴うとしている。

USドル安は商品価格上昇の影響を緩和

USドルが主要通貨に対して著しく下落している現状は、ドル以外の経済圏における国際価格への実際の影響を軽減するものである。しかしながら、自国通貨がそれほど強くない諸国においては、USドル建て商品価格上昇による打撃をもろに受けてしまうことになるのである。

展望

来年の作付期には、より多くの小麦の作付が予測される、とFood Outlook は述べている。この小麦生産拡大は、消費量増加が例年同様とすると、小麦価格を引き下げることになると思われる。

その他作物について、まず、メイズは2007年2月にここ10年での最高値を更新したが、その後急激に下落している。バイオ燃料への活発な需要による、供給限界の懸念が当初の価格高騰をもたらした。しかしながら、大幅な作付けの増大や本年の収穫見込みが良いことから、価格は下がり始めたが、9月時点で、今だに前年の30%増の価格となっている。

もう一つの重要な穀物である大麦についても、最近価格が上昇している。オーストラリアとウクライナという主要生産国の供給量減少に加え、メイズやその他飼料穀物の供給も厳しくなっていることから、需要が一層高まり、ここ数週間で飼料用及び麦芽用ともに価格が2倍に跳ね上がっている。

農産物の中でも、乳製品は昨年、80%から200%以上という最も大幅な増加が見られた。

高い飼料価格が、家畜生産コストを増加させ、その結果畜産物の値段をも押し上げている。家禽類が少なくとも10%と最も上昇している。消費の増加や貿易規制措置の漸進的削減に伴い、食肉・家禽肉価格は今期も引き続き上昇するとFood Outlook はみている。

今回のFood Outlook では、来年2008年国際ポテト年に関する特集を加え、今ではどこにでもあるこの食物についての重要性を紹介している。

英文サイト：<http://www.fao.org/newsroom/en/news/2007/1000697/index.html>

Food Outlook: <http://www.fao.org/docrep/010/ah876e/ah876e00.htm>

お問合せ：国際連合食糧農業機関日本事務所 担当 宮道

Tel: 045-222-1101, Fax: 045-222-1103, Email: FAO-Japan-Info@fao.org

URL- www.fao.or.jp, www.fao.org